

令和5年度 放課後等デイサービス専門研修 第1回研修会

発達障害について

配信期間：令和5年5月8日（月）10：00～令和5年5月22日（月）8：30

静岡市発達障害者支援センター「きらり」
副主任支援員 水野 和佳奈（公認心理師/臨床発達心理士）

始めに・・・

静岡市発達障害者支援センター「きらり」の紹介

社会福祉法人 恩賜財団
済生会支部 静岡県済生会
静岡市発達障害者支援センター
「きらり」
所在；駿河区曲金5丁目3-30
電話；054-285-1124

※済生会病院の北側(道路向)

- 平成19年10月に開所しました。 現在12名のスタッフがいます。
- 業務内容は、相談支援・発達支援・就労支援、普及・啓発・研修などを行っています。
- 関係機関との連携、研修会や勉強会への講師派遣もしています。
- 診断や検査はしていません。
- 本人やご家族、支援者と一緒に、どうすればその人らしく過ごせるかを一緒に考えます。

本日の研修会の構成

§ 1. 発達障害とは

§ 2. WISC-IV検査の4つの指標と知能指数

§ 3. 放デイでの発達障害児への支援

§ 1. 発達障害とは（概要）

- 発達障害は**先天性の脳機能の障害**で、育て方によって発達障害になるわけではありません。
- 知的障害(全般的な理解力の遅れ)とは別の障害です。しかし、知的障害のある方の中に、自閉スペクトラム症やADHDの傾向を持つ方もいます。
- **脳の情報処理（脳の使い方）に偏りがある**ことが特徴です。
この情報処理の偏りによって、診断は大きく「自閉スペクトラム症(ASD)」
「注意欠如・多動症(ADHD)」 「学習障害(LD)」の三つに分類されますが、
重複して複数の特性を併せ持つ方が多くいます。

発達障害の診断



(社会福祉法人 済生会 ホームページより)

1. 自閉スペクトラム症

(Autism Spectrum Disorder, 略称：ASD)

1) 診断項目（中核障害）

① 社会的コミュニケーションの障害

文章全体よりも単語へ意識が向く、字義通りの解釈

コミュニケーションの目的が違う

他者が関心を向けているものを読み取れない、マナーの学び落とし

② 常同行動（限定的、反復行動）

こだわりなど 好きなものが増えにくい

2) その他

① 感覚過敏

② 運動面の苦手さ

自閉症的コミュニケーション①

- 雑談が苦手

⇒会話は「情報交換」の手段。無意識に、「結果」「成果」を求める

- 「ちょっと」「きれいに」といった、曖昧な言葉は分かりにくい

- 表情や声の抑揚から、言葉の意図や相手の感情を推測することが苦手

※テーマが決まっていることに対しての意見交換・情報交換は得意

⇒共通の趣味を通じて友人をつくりやすい（例：趣味のサークル活動に参加）

自閉症的コミュニケーション②

- 会話の全体像よりも、単語や一部の内容に意識が向く
- 黙っている or 一方的にしゃべり続ける
- 相手の顔や目を見て話すことは得意ではない
- 簡潔にまとめることが得意ではない

共同注意

関心があるもの（相手の気持ち）を他者と共有する機能

①始発型共同注意

- ・自分が注意を向けている対象を他者と共有する機能

例）注視や指さしを用いて、「〇〇見て」と相手に伝える

②反応型共同注意

- ・相手の指さしや視線を追うことで、他者が何に注意を向けているかを共有する機能

⇒ 自閉スペクトラム症を抱える人は、共同注意に苦手さがあることが多い。

ADHDを抱える人は、相手の目線を追う途中で他のことに注意が向いてしまう

対人関係・社会性の特徴

- 名前を呼ばれないと、自分に関係ないと解釈する
- 白か黒の両極端な捉え方をしやすい
- 人との距離感をつかみにくい

(パーソナルスペースが広すぎたり、近すぎたりする)

- 人や環境へ慣れるまでに時間がかかる
- 初めてのこと、見通しが立たないことは不安が強い

中枢性統合（全体をとらえる力）の弱さ

- 情報を関連付け、整理することが苦手
 - 部分の集まりから、全体の意味をとらえることが苦手
- ⇒応用よりもパターンで覚える
- 文脈を読み取るなど、対人関係の難しさに繋がる
（状況を把握し、場面に適した行動をとる時に活用する）

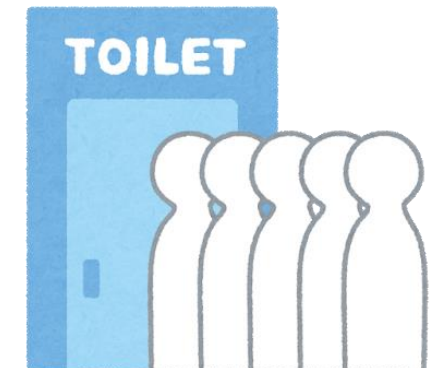
例) 「イベントで多くの人が来ている」

+ 「5人が整列している」

+ 「トイレ前に列が出来ている」

= トイレ利用の為に、5人が順番待ちをしている

⇒自分は最後尾に並ばなければならない



支援方法「実況中継＋指示」：今は〇〇だから、△△するよ

パニック

- 極度の不安やストレスが引き金で起こりやすい
- パニックの度にストレス耐性が低下する

▼不安やストレスの原因

- 日常と違うこと
- 見通しが立たないこと、急な予定の変更など
- 現状の把握ができない
- 初めての場所や人の多さ
- 感覚過敏

こだわり

- 願掛け
- お守り
- 必勝法
- ストレスの対処法



自閉症的こだわりの特徴

- こだわりは心を安定させる機能がある
- 緊張や不安が強い時には、こだわりが強くなる傾向
(予定の変更や新しいことは不安が高い)
- パターン化 (常同的・反復的) されたことは安心が高い
- 人に迷惑をかけないこだわりは、認めてよい

※こだわりへの介入は、安心と自信を高めることができてから

感覚過敏/感覚鈍麻

- 感覚過敏とは、取り入れた情報（刺激）の量やボリュームをうまく調節できないこと（脳機能の働き方が異なる）
- 感覚鈍麻とは、身体のスンサーの感度が鈍いこと
⇒気が付かない間にケガや体調不良、失敗をしやすすい

感覺過敏



聽覺（音）



視覺（光）



觸覺



嗅覺



味覺

感覚過敏(感覚鈍麻)の特徴

- 聴覚→大きな音、高い音、破裂音、ざわざわする音
- 視覚（光）→明滅、眩しい
- 触覚→皮膚感覚、食感、痛み、人口密度、服が濡れる、服の素材（新しい服）
- 嗅覚→トイレ、部屋、体臭、香水、柔軟剤
- 味覚→味つけ
- （偏食）

2. 注意欠如・多動症

(Attention Deficit Hyperactivity Disorder、通称：ADHD)

1) 診断項目

① 不注意

情報を取り込みすぎて集中できない、集中が切れやすい

② 後回しにする/衝動性・多動性

熱しやすく冷めやすい（思い立ったらすぐ行動）

コツコツ進められない⇒一気に取り掛かる

目先の快樂にとびつきやすい（刹那的思考）

③ 物忘れ/忘れ物

記憶を上書きされやすい

選択注意（情報の取捨選択/視野の調整）

- たくさんの情報（刺激）から、必要な情報に焦点をあて、
不必要な情報は意識から遠ざけるフィルター機能

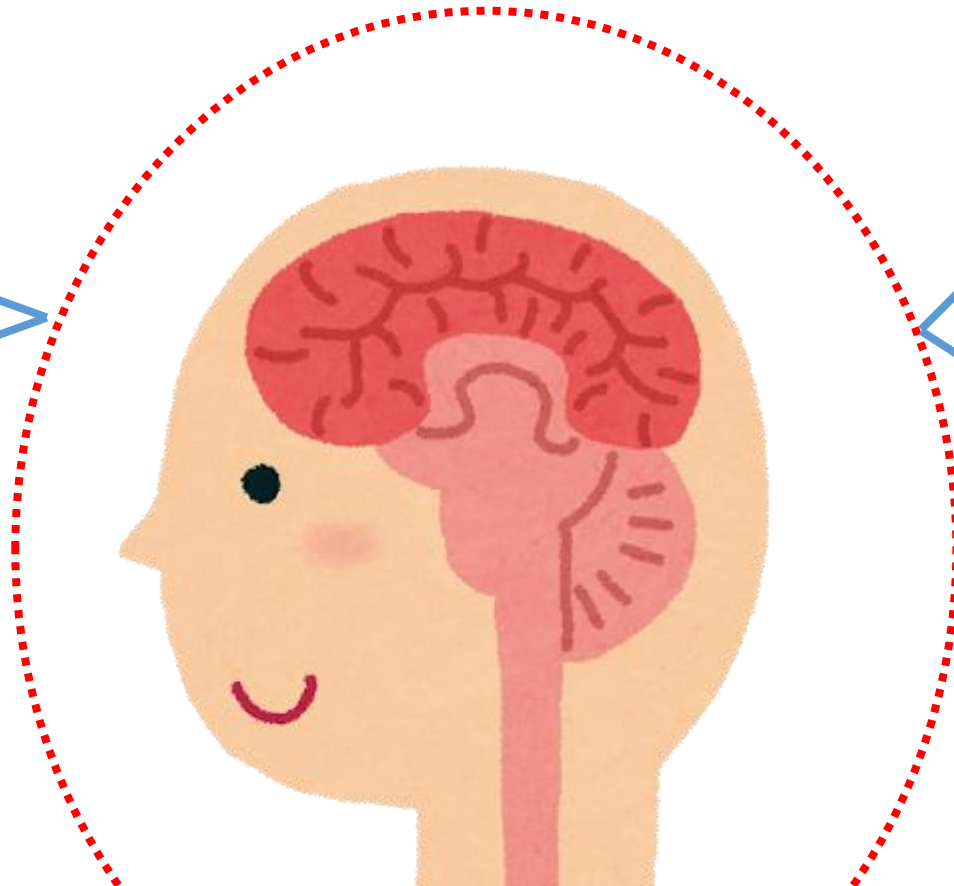
※この選択注意は睡眠と関係が深い。睡眠時間や質が低下すると
フィルターがかかりにくくなり、不注意は顕著に現れる。

★ADHDの特性を抱えていない人でも、生活習慣の乱れなどから
選択注意の機能が低下します

選択注意（情報の取捨選択）

視覚
情報

音



unnecessary sound or visual information so as to filter out unnecessary information

選択注意/共同注意の支援方法

1. 「〇〇を見て」→注目すべきことを具体的に伝える
2. 「赤色で囲ったところを見て」→注目する範囲を視覚的に示す
3. 刺激を減らし、集中しやすくする（環境を整える）
4. 急がせない（見つけるまでに時間がかかる）
5. 睡眠の質、生活リズムを安定させる
6. 服薬が効果的な場合も（選択注意のみ 主治医の判断）

ADHDの不注意以外の現れ

【不注意以外の現れ】

1. 気持ちの切り替えが早い⇔すぐ忘れる
2. 会話中に違うことを考えだす
3. 興味のあるものがころころ変わる（長続きしない）
4. 思い立ったらすぐ行動⇔行動力がある⇔行き当たりばったり
5. 臨機応変⇔計画性がないと誤解されることも
6. 先延ばしにする（コツコツ取り組むことは苦手）
7. 変化を好む
8. 他者の役に立つ/承認・目立つことを好む

ワーキングメモリー（マルチタスクの機能）

1. 耳で聞いたこと、考えたことなどを一時的に記憶しておく機能を持つ
2. 予定をたてたり、段取りを組むといった際に使用する
3. 何かを思い出しながら別の作業を行うといったマルチタスクをこなすときも活用する

PCのハードディスク



※このメモリーの容量が少ないと、指示が覚えきれない、マルチタスクをこなせない、他の情報に上書きされて忘れるといったことが起こる

3. (限局性) 学習障害

(Learning Disabilities/Learning Disorders)

1) 診断項目 (概要)

- ① 理解力(聞いて理解する、言葉で説明する能力)に遅れないこと
- ② 読む・書く・計算する・推論することのどれかに著しく困難を抱える

※学習障害の特性だけを抱えている人は少なく、ADHDの不注意特性を併せ持つ人が多い。

読字/書字

- 読字：文字を音へ変換→音として脳に記憶される
- 書字：脳に保存されている音→文字へ変換



2) 文章の読解・書字に必要な能力

- ①言葉の音を正確に聞き取る（例：「テレビ」が「てーび」に）
- ②聞いたことを記憶する
- ③音韻意識（例：「うさぎ」は「う」「さ」「ぎ」3つの音）
- ④文字の形を分別し、記憶する
- ⑤文字表記の規則性を理解する（例：「わたしは」と「はちまき」）
- ⑥書くための運動能力
- ⑦課題に注意を向ける力

3) 特徴

- ① 特に「読む」「推論する」ことの困難さは生活に大きく影響する
- ② 小学校の入学当初から特性が顕著にあらわれる
- ③ 学習障害は、小学校入学後に出来るだけ早期の支援開始が望ましい
(放置すると、学習の積み上げが困難になり、自己肯定感の低下に繋がる)

- ④ 「推論する」ことに困難がある場合

数量のおおよその計算ができない、 時間予測や物の距離感がつかみにくい、

文章の構成ができない、スポーツや運転の苦手さ、

因果関係の理解（危険予測）がしにくい …など

言葉の力を伸ばすために（放デイでできること）

【遊びの中で ことばの力を育てていく】 遊びの一例

- ・ グリコ
- ・ しりとり
- ・ ことばあつまめ

（「あ」で始まる単語？→「あめ」「あらし」「あいさつ」と文字数増やす）

（「あ」で始まり「い」で終わる単語は？）

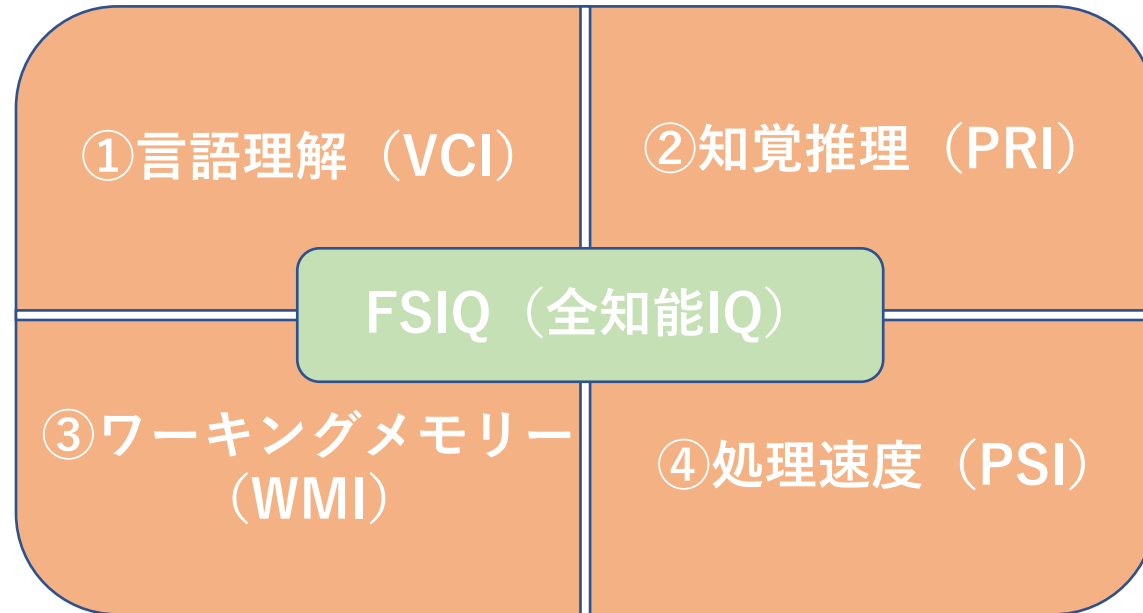
- ・ 猛獣狩り
- ・ ことばビンゴ

（9つのマスに、【冬】から連想する単語を書いていく）

§ 2. WISC-IV検査の4つの指標と知能指数

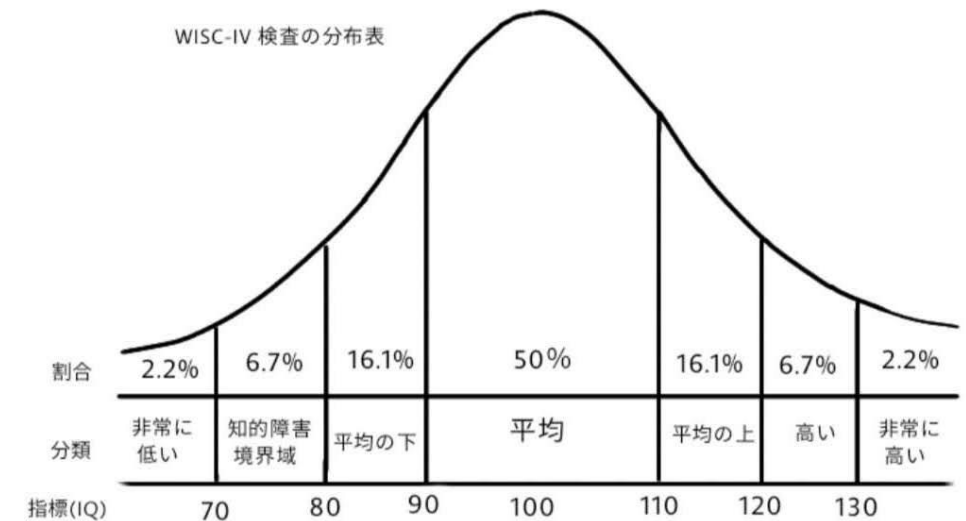
§ 2. WISC-IV検査の4つの指標と知能指数

WISC-IV検査の4つの指標

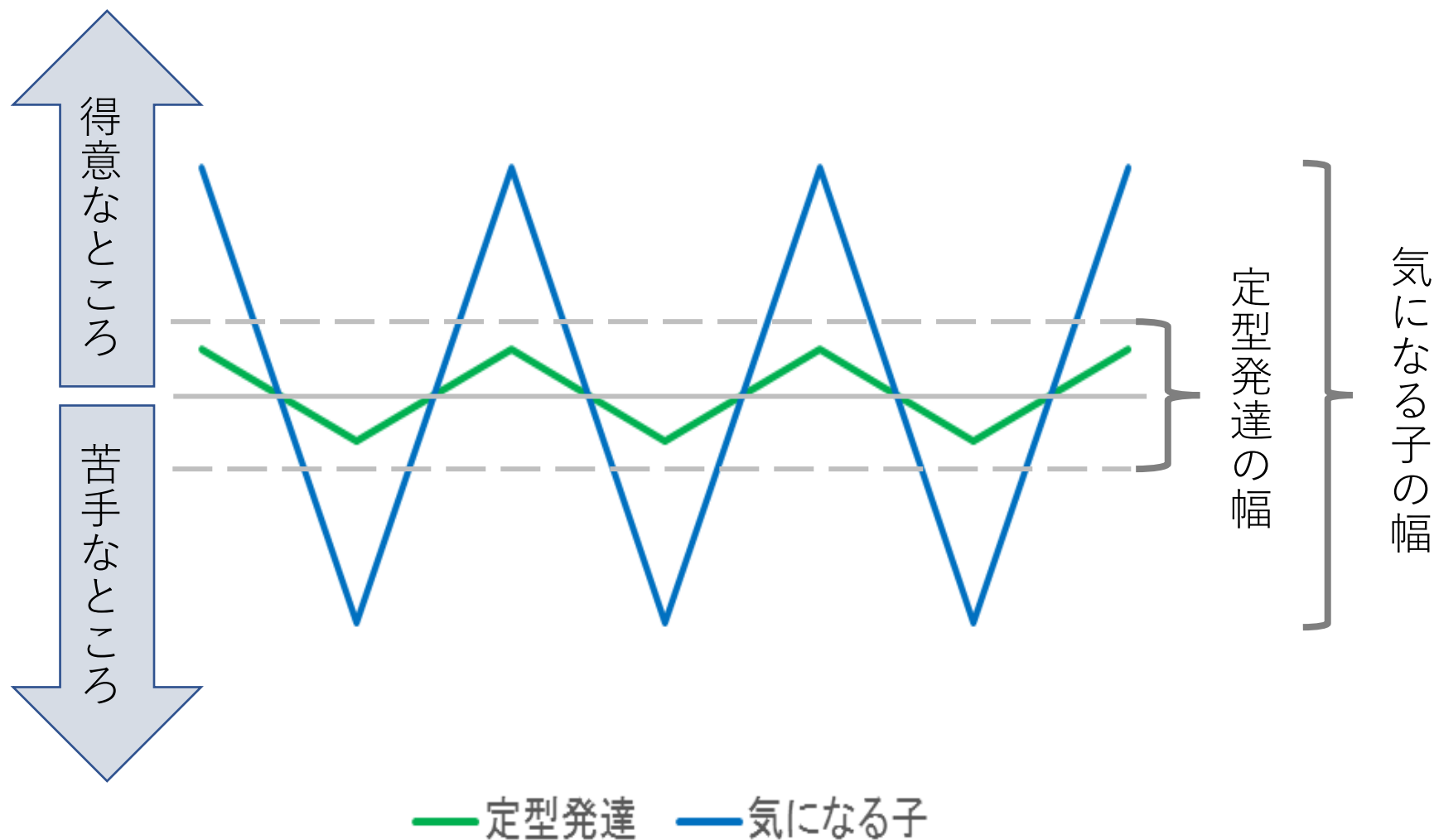


FSIQ (全知能IQ)

WISC-IV 検査の分布表



【イメージ】得意と苦手に幅があります



気になる子（人） = 発達障害の診断があってもなくても、支援を受けると伸びる

①言語理解（VCI）

分析する項目

主に、以下を測ります

- ・言葉（文章・単語）の理解力
- ・言葉でのやり取りの力（説明する力、知識量など）

【分析Point】

- ⇒言語での指示・説明理解、本人の説明能力を把握する
- ⇒年齢にそぐわない行動が、学び落としからか、理解できていても行動をコントロールができないことが背景なのか、を把握する

②知覚推理（PRI）

分析する項目

- ・ 見て記憶する、理解する、推測する力
- ・ 空間認知の力
- ・ 新たな場面で推理や推測をする、合理的な行動ができるかどうか
→経験済のパターンだけでなく、その場に応じた柔軟な対応できるか

【分析Point】

- ⇒他児（他者）の行動を見て真似をする能力を把握する
- ⇒状況理解の苦手さ、社会性などの学び落としをしていないか
- ⇒見えていない部分を補って理解ができるかを考察する

③ワーキングメモリー（WMI）

分析する項目

- ・（見たり）聞いたりした情報を、一時的に記憶に保存する力
- ・頭の中だけで情報を処理する力
- ・マルチタスク（同時進行で2つ以上のことをする）能力

【分析Point】

- ⇒言葉だけで指示するのは分かりにくい？
- ⇒記憶できる説明の長さは？手順の工程数はどのくらいの量か？
- ⇒学習やスキルの定着しやすさはどうか？
- ⇒一度にたくさんのことを処理するのは得意か

記憶≠理解

④処理速度（PSI）

分析する項目

- ・ 作業を処理する力のこと
→ 単調な作業、目新しい情報の処理、書字の速さ
- ・ 視野の調整と集中力のコントロール

【分析Point】

- ⇒ 板書やメモが得意か？負担か？
- ⇒ 処理速度は速いか遅いか（⇒宿題の量を減らしてもらう）
- ⇒ **学習でのつまずきやすさは？**

WISC検査のFSIQ（全知能IQ）

- 1) WISCとは、ウィスクラー式知能検査のこと
- 2) 知能を生活年齢（実年齢）と精神年齢の比として扱う

1. IQ値が120以上

⇒学齢期には周囲が幼稚に見える、探求心が高い傾向がある、コミュニケーションが他者とズレることもある。
（適切な行動の知識はあっても、特性をコントロールできずに適切な行動が取れないこともある）

2. IQ値が85～94前後

⇒丁寧に何度も学習すれば授業がある程度理解できる。コミュニケーションに困っていない印象を持たれることもある。常識的な判断を必要とする場面で、周囲の行動を参考に判断することも（時々間違える）。

3. IQ値が70～84前後（境界性知能）

⇒学習のつまずき、表面的なコミュニケーション、常識的な判断を必要とする場面で戸惑ったり間違いやすい、など、困りごとが顕著に出てくる

4. IQ値が70以下

⇒知的障害の領域

§ 3. 放デイでの発達障害児への支援

支援目標の方向性

- 1) 信頼関係をつくり、放デイを居場所として受け入れてもらう
 - 2) 不安の軽減/自己肯定感の向上
 - 3) スキルの向上・新しいスキルの獲得
 - 4) 予想外への対応や失敗からの立ち直りを学ぶ
 - 5) 助けを求める力を育てる
- 「好き」を増やす

発達障害を抱える人への支援（概要）

- 1) 本人が理解しやすい指示を出す
(具体物やイラスト、一斉指示の後に個別指示を出すなど)
- 2) 刺激を減らす（集中しやすい、安心できる環境作り）
- 3) 不安への対処/見通しを持たせる（スケジュール化、リハーサル）
- 4) 困った時にはお手伝いOK（徐々に自分から「困った」を発信）
- 5) 感覚過敏の軽減
- 6) 状況理解や言語化のサポート（暗黙のルールを説明、気持ちの代弁）
- 7) 学習スタイルへの配慮（合理的配慮）

自閉スペクトラム症のサポート

- 1) 失敗を予防する（環境設定）
- 2) 失敗してもなんとかできることを経験する（計画的な失敗と克服）
- 3) 先生などと一緒なら上手くいく経験⇒大人を頼れるように
- 4) 保護者のケア、本人の疲れやすさへのケア
- 5) 集団では学びにくいことは、取り出し（療育機関など）で学ぶ
- 6) 一斉指示が入らないなら、個別の指示を出す
- 7) 本人が分かる指示を出す
（具体的な短い言葉で伝える、イラスト・ものを見せるなど）
- 8) 安心できる環境・場所・人を見つける
- 9) 安心できる食べ物を見つける
- 10) 状況の説明

自閉症の人にとっての失敗とは

- 失敗から受けるダメージが大きい
- 失敗への不安が強い
- 変化＝失敗のリスク

いつも同じなら成功しやすい（必勝法）

- 失敗するくらいならやらない（自分を守るため）
- 失敗の記憶を忘れられない

失敗からの立ち直り

- ① 本人にとって、どこからが失敗なのかを把握する
- ② どんな失敗をする可能性があるか、予告する
- ③ 支援者がフォローできる範囲内で失敗させる
- ④ 失敗により冷静ではなくなった場合には、クールダウンを
- ⑤ 失敗が想定内だったことを確認する（②の説明が前提）
- ⑥ 失敗後の対処を支援者と一緒に行う

ADHDのサポート（学齢～成人まで）

- 1) 記録に残す（覚えておく負担を減らす）
- 2) リマインダー（思い出すきっかけをつくる）

ツールを活用、
大人のサポート

- 3) 刺激の削減/集中できる環境づくり
- 4) ギリギリで終わらせられればOK！
- 5) 服薬（コンサータ、ストラテラ、インチュニブ）
→主治医の判断

学習障害のサポート（全年代）

- 1) アナウンス/実況中継
- 2) 代読
- 3) 代筆
- 4) パソコンやタブレット端末を使用した学習
- 5) スマートフォンの機能を使った文字の読み上げ

※目的は学習が「分かる」こと。目的達成の為の手段は様々

学習スタイルへの配慮（合理的配慮）

- 1) デイジーなどの読み上げソフトの使用
- 2) 「書く」の負担の軽減（板書を写真で撮る、タブレット端末などの使用）
- 3) オンライン授業、別室授業
- 4) 試験問題の読み上げ、PCで解答する（学習障害への配慮）
- 5) テスト時間の延長、テスト用紙の拡大コピー、別室受験
- 6) UDトーク（先生の解説をテキスト化してモニターなどに表示する）
- 7) 高校受験、大学受験への配慮

⇒中学、高校の定期試験で合理的配慮の実績が1年程度あることが条件となる場合がある

不登校

- 1) 不登校とは学校に登校していない状態を指す言葉である
- 2) 発達障害の特性についてアセスメントする
- 3) 学習に関するアセスメントをする
- 4) 学校の中に「安心できる人」「安心できる場所」をつくる
 - ⇒放デイに來れている理由を分析する
 - ⇒学校と共有し、学校で過ごせるために必要な条件を整える

まとめ. 認識の整理・役割の明確化

- 事実をもとに整理する

不安で思い込みが増大⇒事実だけを抽出

- 「暗黙のルール」は補って整理する

支援者・指導者からの依頼として補う（私は〇〇して欲しい）

- 特性をもとに整理する

自己理解の促進・成功率向上・自己否定の防止

- 医療的知見をもとに整理する

主治医との連携

まとめ. 支援の受け入れ

良い支援を受けてきた経験が自立の土台を作ります。

どのような支援を受けてきたかによって、成人後の自己理解は大きく2つのタイプに分けられます。

支援を受けて成功体験を積めたタイプ。



- これまでも失敗から対策を考え工夫してきた
- 発達障害の特性を理解し、前向きに考える
- 支援機関のサポートを積極的に活用する

支援を避けて成功体験を積みなかったタイプ。



- 多数派の行動、考え方をする様に教育されてきた
- 発達障害であると認められない
- 二次障害(※)を発症していることが多い

※二次障害…社会適応の為の努力や周囲との摩擦からストレスを感じ、うつ病、強迫性障害などの精神疾患を併発すること

参考資料

- 広島県発達障害者支援センター作成 発達障害支援ガイドブック
- LITALICOジュニア ホームページ
- 子どもの心理検査・知能検査 保護者と先生のための100%活用ブック
(熊上 崇・星井 順子・熊上 藤子 著)
- 脳からわかる発達障害～子どもの「生きづらさ」を理解するために～ 鳥居 深雪 著
- 令和4年度 静岡市ペアレントメンター・地域サポーター養成研修 第1回資料
(作成者 あいち発達障害者支援センター 副センター長 吉川 徹 氏)